

ドゥツファ

スピリッツ

バウハウスの精神が宿る、シンプルな型。

派手さはなく控えめだが、時計に求められる要素を無駄なく満たしている。だからこそ上品で美しく、知性すら感じさせる。ドゥツファはそんなブランドだ。

宇田川 淳・写真 photographs by Jun Udagawa 笠木 恵司・文 text by Keiji Kasaki



ペアでも楽しめる、 代表的なベストセラー

クラシカルなスモールセコンド・スタイルをシンプルモダンにデザイン。細身のアラビア数字がスタイルリッシュ。同型のレディースモデルもラインアップ。「クロビウス」。クォーツ、ステンレススチール、ケース径38mm、3気圧防水。¥34,560/ドゥツファ(ウエニ貿易)

近年はドイツの時計ブランドに注目が集まっているが、バウハウス由来のミニマルな機能美を追求したコレクションを展開してきたのがドゥツファ(DUFA)だ。DUFAは、「Deutsche Uhren Fabrik」の頭文字で、意味は「ドイツ時計工場」。1864年創業の時計とオルゴールのムーブメント工房をルーツとする老舗であり、1920年に新工場を増築した際に、この名称に変更された。その期待を裏切ることなく、ドイツのクロック業界で最高峰の名声を獲得したという。

機能性を追求した、 スタイリッシュなモデル

そんなドゥツファが同じドイツ発祥のバウハウスの精神を継承するのは決して不思議ではないが、バウハウスの校長にオマージュしたモデルを数多くラインアップしている。中でもベストセラーの人気を誇るのは、クラシカルなスモールセコンドの「クロビウス」。バウハウスの創立者で初代校長のヴァルター・グロピウスの理念を象徴する、無駄を排したシンプルモダンが特徴。アプラインド(植え込み)の細身のアラビア数字が、時計全体にスタイリッシュな高級感を与えている。「神は細部に宿る」などの言葉でも知



100周年モデルには、 赤・青・黄をアレンジ

プッシュボタンレトロなクロノグラフ。ともにクォーツ、ステンレススチール、ケース径38mm。右:「ファン・デル・ローエ・バルセロナ・クロノグラフ」。¥43,200 左:「ファン・デル・ローエ・バルセロナ・クロノグラフ「バウハウス100周年記念エディション」」。針やストラップにバウハウスが提唱した色の3原色を配している。¥48,600(4月30日発売) /ともにドゥツファ(ウエニ貿易)

●ウエニ貿易 ☎03-5815-3277 阪急メンズ東京 B1F/ TIME&TABLE Rusk ☎03-6252-5496 新丸の内ビルディング4F/ SPINDLE新丸ビル店 ☎03-3211-5117 大阪タカシマヤ1F ☎06-6631-1398 伊勢丹 新宿本店1F ☎03-3355-8433 ルクアイーレ1F ☎06-6454-0309

られる、3代目校長を務めた建築家の名前を冠したのが「ファン・デル・ローエ・バルセロナ・クロノグラフ」だ。1929年のバルセロナ万博で彼が手がけたドイツ・パビリオンへのオマージュであり、「静けさの空間」として構想されたモダニズム建築の傑作を再解釈。極細の針と線状のインデックスに対して、クロノグラフのサブダイヤルを浅く窪ませており、静謐と機能性を絶妙に調和させている。

今年バウハウスが設立されて100周年にあたるため、このクロノグラフをベースにした記念モデルも登場。バウハウスが提唱した△○□の基本形状と3原色を、ダイヤルやレザーストラップにアレンジしている。

これらのモデルは、機能性や合理性に加えて、人間的な温かみも際立った特徴だ。薄いベゼルでダイヤル面を大きく見せる視認性だけでなく、風防ガラスはエッジに丸みをつけたドーム型。ケースサイドもそれを受けてなめらかに仕上げている。ストラップを接続するラグのカーブもソフトでデリケート。求められる機能に基づいて徹底的に考え抜かれたダイヤルデザインを、ケースと風防ガラスがレトロな風情で包み込んでいる。だからこそ、腕に着けた時に魅力的な個性となり、優しさや知性すら感じさせるのである。

価格はアンダー15万円。日本製のクォーツ・ムーブメントを搭載し、精度も信頼できる。さりげなく日常使いしていくうちに、バウハウスのセンスが心から納得でき、共感するようになるはずだ。価格はもちろん、精神的なコストパフォーマンスにも優れた時計といえるのではないだろうか。